

各位

第2弾 宮崎ソーラーウェイ都農第2発電所(1MW)建設開始

～都農第1発電所の実績を踏まえ、宮崎モデル(自治体連携モデル)は第2ステージへ～

グリーン・インフラ事業のリーディングカンパニーを目指す国際航業ホールディングス株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:呉文縷)は、このたび、宮崎県都農町にあるリニアモーターカー宮崎実験線高架上に、国際航業グループとしては国内初となるメガソーラー発電所「都農第2発電所」の建設を開始いたしました。総事業費は約6億円を見込み、来年2月の竣工を目指します。



リニアモーターカー宮崎実験線高架上に建設される
都農第2発電所の完成予想図

都農第2発電所は、日向灘の海岸近くを南北に貫くりニアモーターカー宮崎実験線高架上約3.6kmにわたり、太陽光パネル架台を縦列に配置した世界でも類を見ない形状の発電施設になります。国際航業グループにとっては国内事例初となる太陽電池出力1メガワット(1,000キロワット)の太陽光発電所です。

当施設では、今年4月より稼働している「都農第1発電所」で採用実績があるCIS化合物型太陽電池パネルを約12,500枚使用し、CO₂削減効果は年間約670トン見込まれます(環境

省公表の代替値で算出)。年間発電量は約120万kWhの予定で、平均的な一般家庭の年間消費電力量で換算すると約300世帯分に相当します。当施設は、当社の100%子会社である宮崎ソーラーウェイ株式会社(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:前川統一郎)が建築主となり、国際航業グループ各社が連携して運営を行います。

国際航業グループでは、宮崎県の「みやざきソーラーフロンティア構想」の一環として、宮崎県と都農町の3者によるパートナーシップ協定に基づき、当発電所の開発を進めると同時に、都農町が推進中のまちづくり構想にも参画し、グループ傘下の国際航業株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:中原修)では、当発電所で生み出される環境価値をグリーン電力証書化するなど、地域活性化に向けた環境価値の地域利用や環境教育の機会提供などを行ってまいります。

国際航業グループは、太陽光発電事業の推進を通じた地域活力の向上や、新エネルギーを活かした次世代のまちづくりなど、わが国のグリーン・インフラ事業への更なる貢献を目指します。

以上

【お問い合わせ先】

国際航業ホールディングス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部:鈴木、川幡

TEL: 03-3288-5704

e-mail: press@kkc.co.jp URL: <http://www.kk-grp.jp/>

〈ご参考〉

【国際航業ホールディングスの概要について】

国際航業グループは、「再生可能エネルギーを活用した、地球に優しい社会基盤／社会資本」を“グリーン・インフラストラクチャー”と定義し、地球規模でのグリーン・インフラストラクチャーの整備・構築に取り組んでいます。

創業以来60有余年にわたり、国際航業グループが全国各地の地域づくりで蓄積してきた社会インフラ整備のノウハウと実績、長年にわたって築いてきた全国の自治体や企業との信頼関係、金融サービス事業者を活用した資金調達力など、グループ内すべてのリソースを活用し、再生可能エネルギーによる低炭素社会づくりを積極的にサポートしています。

社 名： 国際航業ホールディングス株式会社（持株会社）
上 場 市 場： 東京証券取引所 市場第1部（コード：9234）
住 所： 〒102-0085 東京都千代田区六番町2番地
資 本 金： 169億39百万円
代表取締役社長： 呉 文 繡（うー う え ん し ょ う）
（連結）従業員数： 2,034人
子 会 社 数： 連結子会社 55社、持分法適用会社 6社

【国際航業グループが進める太陽光発電事業の概要について】

国際航業グループはこれまで、欧州4カ国（ドイツ、スペイン、イタリア、チェコ）において、17カ所、合計40.7メガワット（40,700キロワット）の大規模太陽光発電所の開発と運営を手がけています。

国際航業グループ傘下のGEOSOLグループ（本社：ドイツ）は、メガソーラー発電事業者のパイオニアとして、発電施設の開発から運営ノウハウの提供を行ってきました。国際航業グループは、多様なファイナンスやランニングコストを抑えた運営管理など、これまでに蓄積された技術的ノウハウや開発を実施するための金融ノウハウをもとに、欧州各国への事業拡大をはじめ、日本での事業展開や、アジア諸国への進出など、メガソーラー発電事業のグローバルな展開を目指します。また、大規模駐車場をはじめ、産業用ルーフ・トップなど新規商品開発による事業領域の拡大も目指しています。